

ずいそう

## ありがとう「おんな城主直虎」 大河ドラマ館、経済効果に感謝・感謝



村松志男

私、一昨年4月に務めていた仕事を終え5月から悠々自適な毎日を過ごしておりました。趣味の遊びと友人から勧められた菜園造りをする生活を過ごしておりましたら、暮れの12月に元職場の後輩からこの仕事を是非手伝っていただきたいと要請がありました。

会場をうかがうと浜松市の中心部ではなく、交通の便も余り良くない気賀の町とのこと。若い社員を1年間ここに通わせるのはちょっとと思ひ、これは自分が行くしかないなと意を決し、自分の趣味の季節が終わった2月からこの仕事をさせていただきました。

NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」の大河ドラマ館は、うなぎで有名な浜名湖にそそぐ都田川の畔、浜松市北区細江町気賀にあり、平成29年1月15日から平成30年1月14日までの365日オープン施設でした。

浜名湖から大井川一帯は昔遠江の国と言われました。京の都から近い湖が近江（琵琶湖）、遠い湖が遠江（浜名湖）と呼ばれたようです。この浜名湖の北岸から約一里ほど井伊谷川沿いに上った所に井伊谷の町があり、気賀の町を含めこのあたり一帯が、今回の大河ドラマの舞台となった井伊の国です。

ドラマでは、井伊氏はじまりの場所「井伊共保公出生の井戸」や井伊家の菩提寺龍潭寺など、ゆかりの地が出てまいります。今でも現存する施設が沢山ある町です。

ドラマ館がある気賀の町はその昔港町で商いが盛んな町でしたが、今では天竜浜名湖鉄道（旧国鉄二俣線）が東西に走る湖北の歴史を多く秘めた閑静な住宅地です。

NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」のストーリーは、戦国時代戦のたびに党首が殺され、ただ一人残された井伊家当主井伊直盛の一人娘おとわが、「直虎」という勇ましい名前を名乗って城主となり、乱世の世で地元の民百姓を戦から守り、戦わずして生きながらえながら、元婚約者の息子虎松の後見人となり、後に徳川四天王の一人と言われた井伊直政（幼名虎松）を立派に育て上げ、生涯を力強く生きぬいた女性のお話です。作家の森下佳子さんはこの様な直虎の事を「知恵を刀に情熱を鎧に度胸を兜に井伊家を奇跡の復活に

導いた人」と言っておられます。

大河ドラマ館には、大河ドラマ情報・井伊谷の井戸端セット・井伊氏居館風造作に出演者の衣装・直虎シスター・美術の世界とVRの他、出演者のポスターやご来館された役者さんのサイン色紙などが展示されておりました。施設は、物語の進行に合わせてリニューアルされストーリーに沿った内容をいつでも楽しめる施設でした。

どのようにして目標を決めたかはわかりませんが、大河ドラマ館の目標来館者数は当初50万人でした。

多分過去の大河ドラマ館の入館者数や施設の大きさ、また立地条件などを勘案されての事と思ひます。

私がこの大河ドラマ館に着任したのは、開館から1ヶ月余りが過ぎた2月20日のことです。この時期の1日あたりの来館者数は約1,950名でしたので、オフ期を勘案しても目標が少し少ないと感じました。

その後予想以上に入館者数が増え目標数値が70万人、80万人と上方修正されましたが最終的に来場者は780,923名となり、当初の目標の50万人を大きく上回り事業を終了することが出来ました。

お客様は、富士山静岡空港や中部国際空港を利用された北海道、九州方面からの方々をはじめ、本県内はもとより日本全国から多くのお客様にお越しいただきました。

特に団体バスをご利用のお客様は全体の半数近くおり、バス約1万台、26.2万人が来館されました。これも、ひとえにオープン1年以上前から浜松市及び「おんな城主直虎」推進協議会の皆様の綿密な計画による団体営業の展開とSNS等利用による個人へのPR活動、さらに季節にマッチしたイベントの開催等の結果と思ひます。

春休み、ゴールデンウィークは、特に大勢のお客様が来館いただき、入館待機時間が60分～90分の時もあり、お客様には大変ご迷惑をお掛けし申し訳ない思ひとともに「おんな城主直虎」の人気の凄さに驚かされました。

8月～9月は、昨年会場の上田市のように避暑地ではありませんので来館者の数は伸び悩みました（3月～7月の1日当たり約2,290名、8月～9月の1日当

たり約1,890名、10月～11月は2,310名、12月～1月は1,910名)が、1月は単月で44,900名(1日当たり3,200名)と盛況でした。

当地浜名湖周辺には、館山寺温泉はじめ温泉旅館ホテルが多くあります。また、隣県の愛知県東三河地区にも数多くの温泉旅館があります。大河ドラマ館オープン期間中の宿泊利用者の対前年度比をうかがったところ概ね130%との事です。

会場内でお客様の案内をしていますと「浜名湖に来たからうなぎを食べたいが、美味しいところを教えてください。」というお声をよく頂戴しました。「この辺りのうなぎ屋さんはどこも美味しいですよ。」と近隣のうなぎ屋さんのマップを作り紹介しましたので、地元のうなぎ屋をかなりのお客様が利用された事と思います。

地元浜松市では、良いと思ったらすぐに実行する「やらまいか精神」があります。

今回の会場は、決して交通の便が良いところではありませんので、定期観光バス「大河ドラマ館と龍潭寺めぐり」や直虎タクシーまた館山寺温泉と気賀の港を結ぶ浜名湖遊覧船「直虎号」の運行、そしてJR新幹線と私鉄バス・鉄道の1日フリー切符と入館券のセット券販売などを用意して個人のお客様が来館しやすく、また周辺の観光地を自由に周遊観光できるようにしました。大手旅行会社には、入館券とセットの旅行宿泊商品の販売も依頼しました。

結果、78万人の来館者が来られたことは、宿泊・飲食・運輸など観光に関わる地元産業界及び生産者への経済効果は計り知れない数値であると思うと、大河ドラマ館の招致の重要性を実感します。

また、浜松市内各所で直虎にちなんだイベントやコンサートが開催され、この1年は本当に直虎イヤーでした。

酔ったお客様による女性スタッフへの迷惑行為や転倒による怪我で救急車をお呼びするなど色々な事が有りましたが、体調を悪くされ救護室をご利用されたお客様からの感謝の手紙や、来館された方からの「今まで各地のドラマ館を見てきたが、ここのドラマ館が一番親切でした」とお褒めの言葉を戴いた時は、館内のスタッフとボランティア一同で感激したものです。

会場設営やメンテナンスにご苦勞されたNHKエンタープライズの皆様、当地にドラマ館を誘致された浜松市と推進協議会の皆様、誘客のために全国の旅行会社への営業に励まれた担当者の皆様、館内で地元の歴史文化をご案内いただいたボランティアの皆様、1年間運営に携わられたスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

当初、1年間は長いと思いましたが、あっという間に終わってしまいました。また機会がありましたら、同じメンバーで管理運営をやってみたいですね。

—むらまつ ゆきお

「おんな城主 直虎」大河ドラマ館 運営部 統括—